

デジタル業態変革をどのように進めるのか



株式会社アマナ・進藤博信社長と 全印工連・浅野健会長の変革対談

印刷と写真業界、これまで隣り合わせの業種として関連性を持つことはなかった。各業界で急速に進む技術のデジタル化は、隣接線の仕切りを取り去った。印刷、デザイン、写真、広告企画、さらにはテレビCM制作業界までを同一円状に取り込んだコンテンツ作成業界が新たな枠組みになりそうな現状だ。

印刷の業態変革を指揮する全印工連・浅野健会長と、フォトコンテンツ制作業界のトップ企業である株式会社アマナの進藤博信社長の両氏が、境界線打破のきっかけとなった共通テーマ「デジタル変革」を軸に、このほど異色の対談を行った。「境界線のないところでのデジタル化がビジネスチャンス」とポジティブに取り組む両氏の語らひは、示唆にあふれた内容に満ちている。印刷業界でのこれまでの設備投資は、「投資ではなく減価償却を増やしただけ」とする浅野会長に、積極的なM & A展開をする進藤社長は「デジタル化の中では人への投資こそ必要」と答える。両氏の言葉の深層を、紙上採録の形でここに解き明かす。

「隣の業種」今は「同業種」に
印刷とは既に競合の業界関係に

浅野 今日、われわれの印刷と同様に、デジタル化の中で業態変化を進めておられる写真業界での取り組みを、業界トップの株式会社アマナの進藤博信社長からお話をお伺いすることで、印刷業界の現状を外から見直すきっかけにしたいと思います。貴重なお時間をありがとうございます。

進藤 こちらこそデジタル化を先駆けた印刷業界から、学ばせていただきました。と思っています。

浅野 印刷機械メーカーであり、印刷会社をユーザーとする桜井グラフィックシステムズ（桜井GS）の桜井隆太社長から、御社のストックフォトの配信サービスを会員制で始められたとお聞きしたのですが、進藤社長からご覧になって、印刷業というのはどんなふう映っておられたのか。

同じコミュニケーション業界として、とても関連性があるし、共通点もあるように思うのですが、実際には、これまで接点があまりにもなかったとは思っていますね。

桜井GSさんからの企画、提案があった時点で、印刷業種に対する思いはどのようなものであったか。そこ